

「天空高き」



平成26年2月20日

3 学期挨拶運動

先週、風過ぎから大雪になり、久しぶりに岩国地区は積雪を記録しました。ちょうど、下校時間と重なり、交通渋滞に巻き込まれた人がたくさんいたのではないのでしょうか。実は、私もその一人ですが・・・。

立春は過ぎましたが、毎日厳しい寒さが続いています。そんな中で、10日から3学期の“挨拶運動”と“無遅刻無欠席週間”が展開されました。

早朝から、生徒会を中心に、運動部の諸君も協力して南岩国駅前、校門前そして楽学の石碑前に立って、明るく大きな声で挨拶してくれましたが、本当に、気持ちが和らぎ、元気が出ました。

ケジメのある学校生活を送るための第一歩は、遅刻、欠席をしないことです。そのためには、規則正しい生活習慣、特に、食事・睡眠・適度な運動に気を配ることです。今、まさに3年生の皆さんは、受験のまただ中ですが、意外にも、受験生の皆さんは、風邪やインフルエンザにかかる割合が少ないのです。それは、受験生が受験に対して常に緊張間を持って、日々の生活をしっかり集中して送っているからです。受験中心の生活リズムができているからです。最後まで全力を尽くして下さい。この経験は皆さんにとって大きな財産となり、自己の成長の糧になります。

ケジメのある学校生活を送るためには、次に、明るい、元気な挨拶が大切です。「挨拶」は禅宗に由来する言葉だそうです。

挨拶の“挨”という字は“開く”という意味で、“拶”という字は、“交わる”という意味があるそうです。“挨拶する”ということは、“まず自分自身の心を開くと同時に、相手の開かれた心との交わりによって、お互いに心を通わせ合い、理解し合う”



どんな出来事にも、どんな局面にも、プラスとマイナスがある。問題はあなたがどちらを見るかで決まる。

ということです。

お互いに心を通わせ合い、理解し合うことが、コミュニケーションの第一歩です。まず、明るい元気な挨拶ができることが、人間関係を創り上げていく基本です。家庭、学校や地域で、自分から先に、いつも明るい挨拶を続けていきましょう。

※ 無遅刻無欠席達成クラス おめでとうございます。

F1-4・F2-1・S1-1・S2-1・S2-2・中1-1・中3-2

『継続は力なり』です。残念ながら達成できなかったクラスも次週に向けて、クラスで協力しましょう。

進化を見せた第2回中・六合同発表会

数日前の厳しい寒さを忘れ、春の訪れを予感させる陽光の中、保護者や関係者の方々が多くご来場され、第2回合同発表会が開催されました。

前半は、予選を勝ち抜いたクラス・学年のプレゼンテーションでした。

今回の採点基準は以下の8項目を5段階で評価しました。

①話し方 ②動作 ③図表等の見やすさ ④キーワード・キーフレーズの明瞭性 ⑤論理性 ⑥結論・意見の明確性 ⑦独創性 ⑧インパクト。

どの学年も昨年と比較すると、格段の進歩を見せてくれました。

中1は、今回が初めてにもかかわらず、わかりやすく、創意工夫した、落ち着いた発表態度でした。多面的視点での発想とオリジナリティーがあれば、もっと興味深く面白いものになったのでは、と思いました。

中2は、昨年度の楽学賞を獲得をただけあって、環境問題について、彼らなりの主張があり、インパクトのあるプレゼンでした。

中3は、国際的な問題にチャレンジしてくれました。ストリートチルドレンについては、同世代の深刻な大きな問題です。解決に向けての彼らなりの切り込んだ提起があれば、もっとレベルアップできたのでは、と思います。ミレニアム開発目標の達成についても、自分たちの意見が反映されていましたが、最初にもう少し丁寧な説明が必要だったかもしれません。

S1も、世界に目を向けた、ワールドカップと宇宙ゴミ問題についての発表でした。プレゼン能力も一段とアップしたものでしたが、結論や意見に彼らなりの切り口があれば、もっと興味深いものになった、と思いました。

楽学賞を授与したS2のプレゼンは、形式・内容ともに明確で、安心して拝聴できました。



次年度はさらに、各年齢での視点で捉えた感性と独創性に富んだプレゼンを期待します。

後半の校外活動での優秀作品等の紹介と発表は、見応えも、聞き応えもありました。

S1の模擬国連の挑戦は、彼らの熱い思いが良く伝わりました。きっと後輩達もこの良き伝統を、引き継いでくれるものと確信しています。

S1・2の青少年カナダ派遣報告は、派遣された生徒達が「一期一会」のテーマで協力した内容で、日本代表として明日への架け橋プロジェクトの役割をよく果たしてくれました。

S2の科学の甲子園の報告は、チャレンジすることの大切さと勇気が伝わりました。科学への興味、関心が高まり、きっと後輩達が皆さんの意志を引き継いでくれると思いました。

S2の村田さんの国際理解・国際協力のための主張作文は、長文にもかかわらず、完璧に暗記し、彼女がボランティア活動を通して、コーディネーターの役割の重要性と大切さを我々に伝えてくれました。

中2の松永さんの英語スピーチ、中3村上君の英語暗唱は、日頃の地道な成果を披露してくれました。何十回いや何百回も練習に練習を重ねてきたことに敬意を表します。

最後の好中さんのESD国際交流プログラムの作品発表は、彼女の優しい中にも鋭い彼女なりの感性を我々に披露してくれました。3月には日本ユネスコ代表特使として、ドイツ・フランスを訪問しますが、その任務を立派に遂行してくれるでしょう。

第2回中・六合同発表会は、各年代の瑞々しい感性と大きな感動と元気を我々にもたらしてくれました。

中・六合同発表会と、発表会までの各クラス、各学年の地道な取組は、21世紀に求められる4つの力、「基礎学力」・「思考力」・「実践力」・「コミュニケーション力」の養成に大きく貢献しています。

4つの力を身につけるために、まず、皆さんがチャレンジ(Challenge)すること。そして挑戦を通して、自分を変える(Change)。それが今の皆さんに求められています。



ちょっと深い話—アジアの中国で道を尋ねると・・・

出典：文法から見た「ことばと文化」井上優 より

質問：中国（大陸）で暮らしていたとき、感じたことです。

道を尋ねると、知らなくても、「あっち」とか言って適当に答える人がいるような気がします。そういう体験をなさった方はいませんか？また、別な国ではどうでしょう？

答え：とある本に、中国人は、知らないと言うと相手に悪い気がして、知らなくても「あっちです」と一応答えるのが親切だと思っていると書いてありました。日本の発想では、それは嘘を教えることになるので不親切ですが、処変われば発想が違うということでしょうか。（略）こういった誤解や感覚の違いを理解していくと、もっと良い世の中になりそうですね。

(<http://okwave.jp/qa/q1145120.html>)

私も同じような経験があるので、質問者の気持ちはよくわかります。回答のような見方もできますが、人によっては、「中国人は他人のことは無関心なので、知らない人から道を聞かれても適当に答える」、「中国人は『知らない』と言うと面子が立たないので、知らなくても知っているふりをして答える」と考える人がいるかもしれません。

しかし、これは単に、中国語では、〈相手の発話に見合った内容の発話をする〉ことがコミュニケーションの基本というだけのこと、だそうです。

すなわち、知らない人に道を尋ねられて「あっち」と言うのは、道を聞く方は「場所を教えて欲しい」と言っているのだから、答える方は自分が知る範囲で「あっち」と答えるそうです。「あっちの方だと思いますけどねえ」では教えていることにならないそうです。

ただ「文法」上のことで、「発想」や「文化」の違いではないということです。

さて、皆さんは、この話から何を思いましたか。

ちょっと深い問題—日本の医療—

日本の医療は世界のトップクラスです。

新生児死亡率は1000人当たり1.1人で、世界最高水準、平均寿命も長いだけでなく、健康寿命も世界最長であり、産まれてから死ぬまで素晴らしい医療が提供される環境にあります。

この理由を探りに、あるアメリカの医療関係者の高官が来日しました。視察を切り上げて帰国し、報告書を提出しました。

そのレポートには「日本の医療は、医療従事者の超越的献身と自己犠牲の上に成り立っている。これが長くは続かないだろう」と、書いてあったそうです。

私も皆さんも一生医療にかかわらず生きるということは不可能です。この話は、日本の医療現場が抱えている深刻な問題の一つだと思います。

女子ジャンプノーマルヒル 高梨沙羅選手へ

ロシアのソチで冬季オリンピックが開催されています。日本人選手で一番金メダルに近いと思われていた、女子ジャンプノーマルヒルの高梨沙羅選手がまさかの4位という結果でした。

「応援していただいた方に感謝の気持ちを伝えるためにこの舞台にきましたが、いい結果を出せずに残念です。自分ではどの試合も変わらず挑んでいたつもりでしたが、五輪はどこか違うところがあると思いました。1回目も2回目も自分のジャンプができませんでした」

一番悔しいのは本人なのに、彼女のマスコミに対するインタビューは、まさに、立派の一言です。オリンピック前から彼女の落ち着いた態度と温かい本当に人間味のあるコメントが、共感を呼んでいました。

高梨選手がメダルを逃したとき、メダルを獲得した選手へ祝福する賞賛の態度。インタビューでの感情を抑え、言い訳もしないコメント。驚きです。本当に感動しました。彼女の振る舞いは、まさに「サムライ」です。

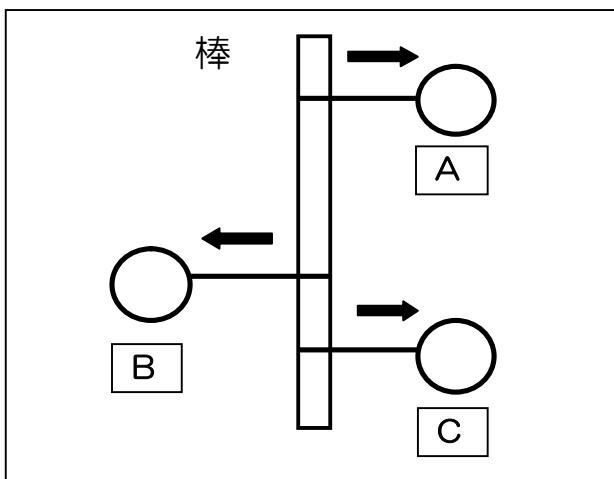
人間の価値は態度で決まる、といつも言っています。彼女の態度は、心底素晴らしい、美しい振る舞いです。

ソチ五輪の女子ジャンプノーマルヒルで4位になった高梨沙羅選手への試合後のインタビューを行ったNHKアナウンサーのコメント、「よく頑張りました」。その言葉はまさに、彼女を応援した多くのファンの一言でもありました。



日刊スポーツ

□いあたまを○くする



左の図のように、棒を3人で引っ張り合ったところ、ちょうど力が釣り合って棒は動きませんでした。大きな力を出している人から順に並べたのはどれですか。

(東京電機大中学 2013 改題)

- (1) ABC
- (2) BAC
- (3) BCA
- (4) CBA
- (5) CAB

中国大会ー女子バスケットとハンドの熱い闘いー

朝晩の厳しい寒さが少しは和らいでくれたら、と思う毎日です。

早朝、放課後と、グラウンド、体育館や武道場では、寒さとは無縁で、部活動の選手達は一生懸命に練習に取り組んでいます。

先週の2月8・9日には、女子バスケットボール部と女子ハンドボール部が、中国大会に県代表として出場しました。

バスケットボール部は、準決勝で岡山県の就実高校に、惜しくも5点差の僅差で敗れ、3位でした。一番悔しい思いをしているのは選手達ですが、その思いを日々の生活や練習にフィードバックして、6月の総体予選でその真価を発揮してもらいたいと思います。

女子ハンドボール部は、昨年度に続き優勝、しかも連覇です。

1回戦から他校を寄せ付けず、スコアでも大差で、決勝戦に駒を進めました。

会場は周南市の麒麟ビバレッジで、対戦相手は本校から一番近い距離にある岩国商業です。

序盤こそ接戦でしたが、終わってみれば35対13の圧勝でした。3月末に愛知県で開催される、全国大会での躍進に期待したいと思います。

本校のHPに掲載されている西本監督のコメントを最後にご紹介します。

『今大会は、開会式の選手宣誓を主将日柳愛美が見事に成し遂げ、始まりました。戦術的には“タフなディフェンス”と“的確なパスワーク”をポイントに臨み、選手たちはよく集中し、一試合一試合を戦いました。最高の選手たちです。今後も応援をよろしくお願いします』

